2022年度後期　2級実技（論述）試験
採点官から観た受検者の傾向

厚生労働大臣指定試験機関
キャリアコンサルティング協議会

　キャリアコンサルティング技能検定2級の実技（論述）試験の採点を担当した採点官にアンケートを実施したところ、以下のような意見等が寄せられました。内容は受検者個々人に対するものではなく受検者全体の傾向として取りまとめています。それぞれがご自身の課題へ落とし込んでいただき、キャリアコンサルタントとしての能力向上を図る学習等の参考となれば幸いです。

　なお、本稿は個々人の課題を表すものではなく、試験の合否判定結果とは一切関係ありません。また、これらは試験の合否について説明するものではないことをご理解下さい。

■「相談者がこの面談で相談したい『問題』は何か」について
・相談者が訴える問題を正しく捉えることはキャリアコンサルタントとして基礎的なことだと思いますが、多くの受検者が相談者の「問題」については気持ちの理解も含めてよく捉えられていました。
・一方で、相談者の応答をそのまま羅列して記述するなど、要点がまとめられていない回答も見受けられ「相談者が何に悩み何を相談したいのか」の理解が曖昧であると感じられるものもありました。

■「キャリアコンサルタントとしてあなたが考える、相談者の『問題』は何か」について
・相談者を理解しようと真摯にこのケースに向き合おうと努力されたことが窺えました。
・一方で、相談者の本質的な問題や課題、つまり今、置かれている状況や環境をつかみきれていない表層的な記述が多いように感じました。また相談者が相談したい「問題」とキャリアコンサルタントとしての「見立て」が混同した回答も多かった印象です。
・今期の事例でいうと、相談者は「定年後の働き方」について悩んでいるのですが、それに対し「自己理解不足」「仕事理解不足」「コミュニケーション不足」といった一般的な転職支援に留まった回答が多く、相談者の真の問題はどこにあるのか、ということについて理解を深めることが必要だと感じました。

■目標と具体的な方策について
・相談者が意思決定できることについて色々と検討されたことが伝わってきました。
・一方で、目標に対する方策が合致していない回答も散見されました。目標に向けてその方策が相談者にとってどのような効果を期待できるものなのか等、目標と方策が紐づけできているかということは重要であると考えます。
・先に述べたとおり、今期のケースでいうところの定年という節目を迎えるにあたり、これからの役割等の変化も課題だと考えますが、どの事例でも当てはまりそうな記述が多く「相談者がこの面談で相談したいこと」に対して論理性や根拠に欠ける回答が多いことが残念でした。
・なぜその方策を取ることが必要なのかということについては、まずはそれに相談者が取り組むことができるのか、またそれを実施することによって今後に向かって進むことができるどうかを検討する必要があります。ケース全体を俯瞰してみていただく力をつけていただきたいと思います。